

長崎の林業

小曾根星堂書



東京オリンピック・パラリンピックに提供した長崎県産のヒノキでベンチを製作

6

目次

● 林政だより (森林整備室治山班)	農山村地域の安全・安心で快適な暮らしを守る治山事業 ～梅雨時期の災害に備えよう～	2～3
● 林政だより (林政課森林活用班)	東京オリンピック・パラリンピックに提供した長崎ヒノキで 特別支援学校木エコースのみなさんとベンチを組み立てました!	4
● 特集記事	森林ボランティア団体 ながさき楽しみの森づくり会 蓑田清隆(みのだきよたか)さん	5～6
● 林業普及だより	林業事業体および 林業専門作業員育成プログラムの策定について(中間報告)	7
● 地方だより	第61回 長崎県乾しいたけ品評会 開催	8
● 林業団体情報	県民の森を遊び尽くせ!	9
● センターだより	期待の早生樹! 「チャンチンモドキ」について	10
● 紹介コーナー	Acoustic Live 2022 inながさき県民の森	11
● 長崎の山と森	七ツ岳(五島市) 431.1m	12

「長崎の林業」は、
ながさき森林環境
税により発行して
います。



2022
No.801

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう!

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

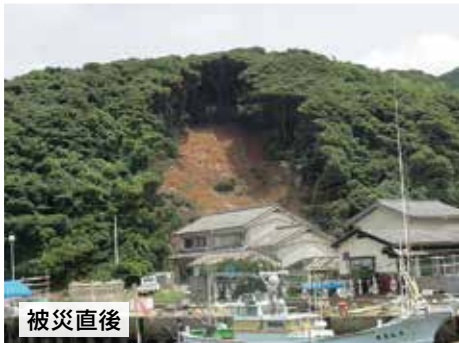
ご自由にお持ち下さい。

「長崎の林業」はこちらからもご覧いただけます→



林政だより

農山村地域の安全・安心で快適な暮らしを守る治山事業 ～梅雨時期の災害に備えよう～



雲崎市 勝本町 ^{やぶた} 藪田地区 (治山事業施工事例)

はじめに

近年、梅雨時期や台風時期において集中豪雨が頻発する傾向が高まり、これまでにない激甚な災害が発生しやすい状況にあります。

昨年8月11日から19日にかけての大雨では雲仙市で総降水量1,291.5mmを記録し、県央・島原振興局管内を中心に山腹崩壊や地すべり等の災害により、人命・建物・農林業関係に甚大な被害が発生しました。

特に本県は、年間降水量が1,895mmと全国平均の1,662mmより多く、また離島・半島部を多く抱え狭隘な土地に集落等があり、山地災害が発生しやすい状況となっています。

こうした災害の未然防止と被害を最小限に抑えるためには、山地災害の発生に備え、県民の方々に災害の恐れがある地区がどこにあるか知っていただき早期の避難に繋げる必要があります。

農山村地域の安全・安心で快適な暮らしを守る治山事業

治山事業とは、森林の維持造成を通じて、山地災害から国民の生命・財産を保全するとともに、水源の涵養、生活環境の保全・形成を図る事業です。県では、農山村地域の安全・安心で快適な暮らしを守るため、山地災害の恐れがある地区を山地災害危険地区として

判定し、国の補助事業・県単独事業により治山ダムを設置や森林整備などの治山事業を実施しています。



(令和3年8月の大雨による被災箇所)
雲仙市 小浜町 ^{こじごく} 小地獄地区

山地災害危険地区について

地形や地質、植生等の条件により、森林の状態を評価し、人家、道路等の公共施設に被害が及ぶおそれがある地区を「①山腹崩壊危険地区」、「②地すべり危険地区」、「③崩壊土砂流出危険地区」として判定し、県のホームページ「長崎県総合防災ポータル」の総合防災GIS※に掲載しています。梅雨や台風の時期を前に危険な箇所がどこにあるのか、災害に備えて普段から家族や地域で危険地区や避難場所について話し合うとともに、実際に自分の目で確認しておきましょう。

自助・共助の意識を高めて減災！

災害を未然に防ぐためには、自らを守る自助と周辺の方々と協力し合う共助による自主防災が、現在最も効果を発揮します。

そのためには、普段から家族や地域ぐるみで災害発生危険箇所や避難場所、避難経路について十分話し合い、実際に自分の目で確認することが大切です。避難場所については、山地災害危険地区と同様に長崎県総合防災

GISで確認が出来ます。

また、異常時の変化に気づく目を養うことも重要です。山地災害の兆候としては、図2に示すような現象のほか、不審音の発生が挙げられます。

山地災害の発生はいつ起きるか分かりません。近隣の山林などで異変を感じたらすぐに避難し、災害が発生した場合は、すぐに「110番」か「119番」に通報しましょう。

(森林整備室 治山班)



図1 山地災害危険地区のイメージ



図2 山地災害の危険信号の例

※ 長崎県総合防災 GIS <http://www.pref.nagasaki.jp/sb/gis/index.php>

林政だより

東京オリンピック・パラリンピックに提供した長崎ヒノキで特別支援学校木工コースのみなさんとベンチを組み立てました！

令和4年4月27日、長崎県立希望が丘高等特別支援学校で、同校環境デザイン科木工コース2年生、3年生の皆さんがベンチ2台を組み立てました。



組み立ての様子

オリンピック・パラリンピック提供木材

ベンチの材料として使用したのは、2020東京オリンピック・パラリンピックの選手村に提供した長崎ヒノキです。

全国から提供された木材で選手村ビレッジプラザをつくり、大会終了後に解体された木材をレガシーとして活用するプロジェクトに長崎県が参加し、諫早市、大村市、雲仙市のヒノキ約14立方メートルを提供しました。解体された木材は、ベンチに再加工することとし、ベンチの再加工等を受注した企業の提案で、今回授業の一環として組み立てました。

さすが木工コース！

ベンチのデザインは、選手村で利用された木材の形を可能な限り残すため、角材をそのまま使用したものとしています。見た目は簡単に組み立てられているように見えますが、木材と木材を金具でつなぐため、見えにくい位置でボルトを締めるなど、難しい作業がいくつもあります。

しかし、木工コースの皆さんは、日頃から木工作业をされているだけあって、インパクトドライバーの扱いもお手の物。難しい作業

にも丁寧に取り組んでいただきました。

組立てが終わった後は、選手村で使われた木材ということを示す焼印を押して完成です。



焼印を押す様子

諫早市中央体育館に設置しました

組み立てたベンチ2台のうち1台は、同校がある諫早市の諫早市中央体育館に設置しました。5月12日に開催されたベンチのお披露目式では、大久保市長に今回の取り組みを紹介し、木工コースの皆さんが作ったベンチの設置を喜んでいただきました。



お披露目会後の集合写真

今後、選手村で使用された長崎ヒノキを再加工したベンチを計28台作成し、県内各地のスポーツ施設などに設置します。

ベンチを見かけた際は、触れて座って長崎ヒノキの良さやオリンピック・パラリンピックのレガシーを感じてみてください。

(林政課森林活用班)

【特集記事】



森林ボランティア団体
ながさき楽しみの森づくり会
蓑田清隆さん

みのだ きよたか
蓑田清隆さんは、生まれも育ちも長崎市新戸町です。近くには長崎市民の森（以下「市民の森」という）や八郎岳があり、自然環境に恵まれていました。

蓑田さんは、学生時代に電子工学を専攻し、現在不動産業を営まされていますが、これまで自然と直に結びついた仕事の経験はありませんでした。

そのような蓑田さんにも転機が訪れます。40代の頃に身内に不幸があり、生命の無常を深く心に刻み込むこととなりました。その時、道端に生える雑草が目にとまり、生命力のたくましさ心がひかれ、この植物の名前を知りたいとの思いがきっかけとなり、※りょうげんのひ 燎原の火のごとく蓑田さんの探求心に火が付きまします。今では草本、木本及びシダ植物に至るまで興味の対象が広がっていま

す。さらに絶滅危惧種の調査に参加するなど学術上の貢献もされています。

蓑田さんが代表を務める「ながさき楽しみの森づくり会」（以下「楽しみの森づくり会」という）は、平成25年に森林ボランティア団体として登録されました。会の結成には、市民の森「いきもの調べボランティア」の活動が大きく影響しているようです。自発的に集まった参加者が調査しながら森を歩く中で、森林公園としての環境整備や生物多様性の保全の必要性が共通認識として参加者に自覚されるようになりました。まさしく市民の森が取り持つ縁でした。

楽しみの森づくり会では、自然観察やタケノコ掘り及び竹利用のワークショップなど各種のイベントを市民の森で実施しています。また、森林・山村多面的機能発揮対策の交付金を活用し

て橘湾と雲仙・天草を臨む丘周辺を整備し、たちばなしょうだいてんぼう 橘翔大展望と名付けました。今では日の出を見に来る人たちも増えて人気のスポットとなっています。さらにラーメンの具材として代表的なメンマづくりにも挑戦しています。もうそうちく 孟宗竹から地元産のメンマを自給できれば竹の有効利用につながります。

蓑田さんは、会が主催するイベントが一過性で終わってほしくないとおっしゃいます。なぜなら、森林や竹林は継続的な手入れが必要で、末永く興味を持ってもらいたいからです。今後林業と自然環境の保全が両立できるように活動領域を広げていきたいとのお話が印象的でした。

楽しみの森づくり会は、市民の森にある長崎市木工館をホームベースにして、現在蓑田さん他7名の仲間が活動を行っていま

す。会計担当の女性会員は若い方ですが、残りの6名の男性会員は、70台半ばから80台後半までのメンバーで構成されています。蓑田さんは65歳ですので男性では一番若いことになります。

楽しみの森づくり会では、これまで野鳥の森の整備や竹林の本数整備及び遊歩道の整備や補修などを実施してきました。前に述べたように、森林公園としての環境保全や生物多様性の保全が必要との思いからです。まさしく市民の森を守る「縁の下の力持ち」です。



整備された遊歩道

令和4年4月9日(土)、「えぼし いわじゆもくえん烏帽子岩樹木園植樹祭」が開催され、田上長崎市長御本人からご祝辞を頂くこともできました。親子連れを含む50名以上の参加者が、新しくできた「こみちさえずりの小径」を通してシャクナゲ

の植栽場所まで行き、植え付けを実際に経験することができました。植樹祭の開催にあたっては、「さえずりの小径」の整備やシャクナゲの植え穴の準備等会員が一丸となって仕事を引き受けました。高齢者ながら仕事に関わった人たちの体力の強靱さに頭が下がります。

植樹祭でシャクナゲを植栽したのは相応の理由があります。それは市民の森に鹿が現れて、鹿の口が届くところの草木はすべて食べつくされてしまうからです。食べられた境をディアラインと呼びます。ディア

ラインができると見通しがよくなり、一見すっきりしたような感じになるのですが、植生を喪失した森林は土砂の流出を引き起こし、健全な生態系を維持できなくなります。シャクナゲは有毒成分を含んでおり、植え付けるとディアラインができるのを防止できるのです。ただし、シャクナゲの苗木は、1本につき高いものでは2~3千円もするようで、主催者にとっては出費が大変だったに違いありません。

植樹祭が終了後、竹林に移動して親子でタケノコ堀りを楽しむことができました。初めてタケノコ堀りを経験する親子連れもあり、貴重な経験になったことでしょう。

楽しみの森づくり会のさらなる活躍を祈念します。

※燎原の火とは、勢いが盛んで防ぎとめることができないこと。

(NPO法人地域循環研究所)

林業普及だより

林業事業体および林業専門作業員育成プログラムの策定について（中間報告）



プログラム策定の目的

県では、「第3期ながさき農林業・農山村活性化計画(R3～R12)」において、「林業の将来像：林業専門作業員 420 人の確保及び平均年収 520 万円」を目標に掲げています。

目標達成のためには、林業事業体及び従事者の育成に向けた体系的なプログラムの作成・実行が必要です。

そこで、令和3年度に県内外の学識経験者等による「林業事業体および林業専門作業員育成プログラム策定委員会」を発足しました。

○プログラム策定委員会名簿

No	所属	役職	氏名	備考
1	鹿児島大学	教授	枚田 邦宏	座長
2	Woodsman Workshop Forestry Safety Research		水野 雅夫	
3	FOREST MEDIA WORKS Inc.	C.E.O	樫崎 達也	
4	長崎県森林組合連合会	専務理事	佐藤 義高	
5	林業・木材製造業労働災害防止協会 長崎県支部	事務局長	林 康弥	
6	平戸市森林組合	参与	神田 孝夫	
7	(株)長崎林業	取締役	田中 正博	
8	対馬森林組合	参事	上原 正康	
9	長崎県林政課普及指導班	課長補佐	山口 健司	

10年後の将来像

プログラム策定に向けて、「“人財が集まり、定着する”魅力ある林業事業体」を林業事業体すべての共通テーマ（将来像）としました。将来像達成のためには、経営ビジョンに基づき行動し、経営に参画できる人材の育成や、林業の最重要課題である安全対策の強化に取り組む必要があります。また、現在、従事している人が10年後も輝き続け、自らが尊敬される先輩となる努力に加え、研修受講体制も「個人」から「組織」としての人材育成（研修）という認識を変える必要があります。

育成すべき具体的な人材像

人材育成の基本方針は以下のとおりです。

～事務職員～

① 組織経営を担える人材

《積極的な経営への参画(企画・立案・実行)》

積極的に経営に参画し、ボトムアップで企画を立案・実行するなど将来、事業体の柱となる人材の育成

～林業専門作業員～

② 管理監督者の育成

《現場から経営への参画(安全で儲かる林業)》

安全と経営の両面から事業体（さらには林業界）を牽引できる人材の育成

③ 安全技術の習得・安全管理の徹底

《重大災害0、労災発生率を他産業並みへ》

安全技術を理解し、指導できる人材（各地域・事業体の安全のキーマン）の育成

～経営者層～

④ 経営理念の共有

《経営理念に基づき、職員がいきいきと働くことのできる職場づくり》

経営理念・ビジョンの作成・明確化・共有化、職員の意見を聞き、最終決断をするリーダーシップ



林業専門作業員スキルアップ研修

なお、各林業事業体からは上記方針に基づき、キーマンを研修に派遣してもらい、各キーマン同士の交流を深めながら県全体のレベルアップを図ることとしています。

（林政課普及指導班）

地方だより

第61回 長崎県乾しいたけ品評会 開催



品評会の様子(農林水産大臣賞の授与)



緒方 公洋 氏 美千代 氏 緒方氏 香信厚肉



乾しいたけ品評会

対馬しいたけは、島の自然が育んだ原木で、厳しい季節風と乾燥風土のなかじっくり育ち歯ごたえのよさ等高く評価されています。この乾しいたけの需要拡大・生産技術の更なる向上を目的に品評会が開催されています。

審査会の実施

今回は、箱物11点、グラム物108点の計119点、その他ジャンボしいたけ4点、名人の花どんこ箱物1点が出品されました。

審査部門は4銘柄(どんこ・花どんこ・香信厚肉・香信中肉)、2区分(グラム物：重さ750g以上・箱物：大箱規格箱に満杯詰め)があり、形状や色、大きさ、香り、乾燥具合等について審査されます。



審査の様子(左:グラム物 右:箱物)

その結果、緒方公洋さんの香信厚肉・箱物は品柄が揃っており、色つやや巻き込み、ボリューム感等最も優秀であると評価され、農林水産大臣賞を受賞されました。箱を開けた瞬間多くの審査員が目を奪われる程の素晴らしい出来栄で、その他の入賞者の方々についても、甲乙つけがたい力作ばかりでした。



また、名人位の永尾

永尾氏 花どんこ

賢一さんの花どんこ・箱物は、その品質の高さが毎年審査員を驚かせますが、今回もその期待を上回るほどのとても見事な作品でした。

特賞受賞者一覧

区分	氏名	部門	
		銘柄	区分
農林水産大臣賞	緒方 公洋	香信厚肉	箱物
林野庁長官賞	原野 真	どんこ	箱物
	吉田 永	香信中肉	箱物
長崎県知事賞	吉田 永	どんこ	箱物
	原野 真	花どんこ	グラム物
	吉田 永	どんこ	グラム物
	多田 栄次	香信厚肉	グラム物
	波田 裕一郎	香信中肉	グラム物

どんこんならんジャンボしいたけグランプリ

長崎県議会議長賞	内山 文男	最優秀賞 金賞
----------	-------	---------

品評会の開催

5月21日(土)に多くの関係者の出席のもと、品評会が開催されました。新型コロナウイルス感染拡大の影響から3年ぶりとなる今回は、生産者の方々にとっては念願の開催となりました。

今回の出品に際し、秋子・春子時期の少雨により生産者においては水分調整や品質管理に苦労した年となりましたが、そのような中でも、厳選した高品質の乾しいたけが会場に並ぶ光景は圧巻でした。

入賞者の方々は、受賞品をたくさんの方に見ていただき、受賞の喜びを噛みしめると同時に、互いの生産技術を称えあっていました。

終わりに

今回入賞された方々をはじめ、生産者の方々の日々の努力と高い技術力の積み重ねにより「対馬原木乾しいたけ」が島外県外から高く評価され続けています。今後も、その成果が受賞者や出品者の方々のもとより、多くの生産者にとって、生産意欲の向上に繋がることを期待します。(対馬振興局 林業課)

林業団体情報



県民の森を遊び尽くせ!

5月の第3土曜日はオートキャンプの日

日本オートキャンプ協会は5月の第3土曜日をオートキャンプの日としており、長崎県民の森も毎年、この日にあわせていろいろなイベントを開催しています。

今年は、コロナ禍を吹き飛ばすべく県民の森の中で思いっきり遊んでもらおうとの思いを込めて宿泊者限定1泊2日の「県民の森を遊び尽くせ!」のオートキャンプ企画を開催しました。

春風の中、薪わり体験

今回参加してくれた家族は5組。初めてのキャンプということで、ワクワクドキドキのキャンプ体験が始まりました。

まずは薪わり体験から。お父さんもお母さんも初めての体験で、ちょっぴりへっぴり腰になりながらも「スパーン」と割れた時には爽快感満載の顔になっていました。

子供たちは「フェザースティック作り」に挑戦。杉の棒をナイフで削って火がすぐにつきやすいようにボサボサにします。メタルマッチで麻ひもに点火し、さらにフェザースティックに火を移します。最後に割った薪に着火し夕食調理用の薪ストーブの火ができました。

夕食はカレー DE ナン

飯ごう炊飯とナンはBBQコンロで、カレーは薪ストーブとスウェーデントーチで作りました。スウェーデントーチとは丸太に十字にチェーンソーで切り込みを入れ、その中心に種火を置いて燃やすもので勢い良く燃えて

くれます。

屋外で薪の火で作るカレーはたぶん特別な味がしたのではないのでしょうか。

飯ごうでのご飯もフライパンで作った「ナン」も上手に出来ました。



スウェーデントーチで特別なカレー

ほっぺが落ちそう

「カレー作りが楽しかった。」「ナンをこねるのが楽しかった。」「どちらもおいしくてほっぺが落ちそうでした。」などのコメントが参加者からありました。

初めてのキャンプを皆さん楽しんでいました。

準備した県民の森スタッフも笑顔になっていました。また来年も楽しい企画を用意しますので是非参加していただきますようお願いいたします。

(長崎県民の森管理事務所)

センターだより

期待の早生樹！「チャンチンモドキ」について



諫早市試験地内のチャンチンモドキ

早生樹とは？

早生樹とは、成長が早く短期間の収穫が可能な樹種の総称です。植栽してから伐期に至るまでの期間が短く、下刈り費用の低減等が期待されています。農林技術開発センターでは、平成30年から数種類の早生樹を諫早市内の県有林に植栽し、成長特性や長崎県に適した樹種を明らかにするため、試験を行っています(早生樹現地適応化試験)。

チャンチンモドキとは？

早生樹として注目されている樹種の1つであるチャンチンモドキは、落葉広葉樹であり、日本では主に九州に分布しています。樹幹は通直で樹高は30m、胸高直径は1mに達します。材の用途としてはチップ材や家具材などが想定されます。

平成30年3月、諫早市内の試験地にチャンチンモドキを含む早生樹7種の植栽をしました。植栽後4年目までの樹高成長量を図1に示します。

現時点で一番成長の良い樹種はチャンチンモドキとなっており、4年で平均樹高が7.7mに達しました。しかし、直径が細く風害を受けやすく、令和2年の台風では半数以上が被害を受けています。

そこで、被害木を回復させるために台切り(植栽木を地際から切断し、切株から萌芽

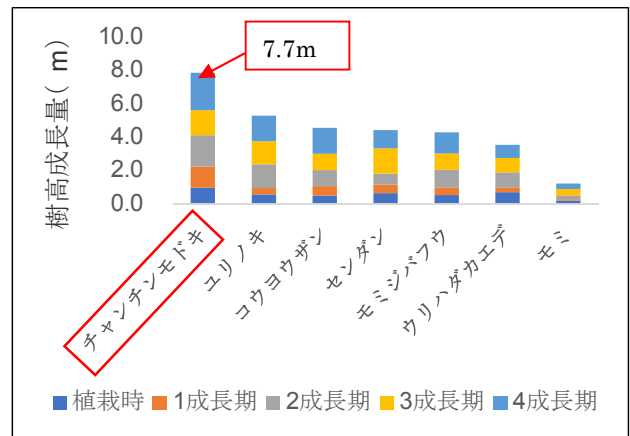


図1 樹種別平均樹高成長量

により勢いの良い新しい幹を育てる作業)を行ったところ、1年で樹高が4.5mに達しました。

チャンチンモドキへの期待と課題

試験地での初期成長及び萌芽更新による成長が旺盛なチャンチンモドキは、長崎県に適応した早生樹の1つとして期待されますが、風害を受けやすいため、基本的には風当たりの少ない場所を選定して植栽することが大切です。

しかし、植栽する場所によっては風害対策が必須となるため、風害を考慮した施業についても検討しているところです。他の樹種も含め、今後も早生樹の様々な可能性を検証していきます。

(長崎県農林技術開発センター)

紹介コーナー

Acoustic Live 2022 inながさき県民の森



団体名: Encounter (エンカウンター)による演奏

ながさき県民の森 森林館は、人と自然豊かなふれあいを目指した大型木造展示館です。ながさき県民の森内の施設・イベントの案内の他、長崎県の森の周りに住む生き物たちの暮らしを再現した森の生態ジオラマ、五感を使って学べる森の情報プラザ等森林に関する様々な情報を提供しています。

令和4年5月7日(日)、森林館にて、「Acoustic Live 2022」が開催されました。

こちらは、木造で天井の高い森林館の木の優しい響きを楽しんでもらうことを目的に開催されたものです。「音楽で笑顔に！」をテ

ーマに9組の団体が鍵盤ハーモニカやギター、二胡、オカリナ、長崎県産ヒノキのカスタネット等を使用し、ジブリやテレビドラマ、童謡・民謡、オリジナルで作詞・作曲した曲等様々な曲を演奏しました。

イベントでは、夫婦やご家族、たまたま森林館に来られてイベントを知った方から「生の演奏を聴けてよかった」、「素敵な演奏でした」等の声があり、木造の館内で優しく響く音楽に包まれながら楽しい時間を過ごせたようです。

今回は山の日の8月11日(木)11時より、同所での開催を予定しています。ながさき県民の森に足を運ぶ際は、是非、森林館に立ち寄って、演奏を聴いてみてはいかがでしょうか。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、中止・延期になる可能性がございます。予めご留意ください。

(NPO法人地域循環研究所)

【問合せ先】

代表 **城山 武彦**

MAIL: tshiro1970@icloud.com

伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和4年5月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	25,400	普通	普通	普通
	16~18	小曲り	24,000	普通	普通	普通
	20~22	直	25,000	普通	普通	普通
	20~22	小曲り	23,200	普通	普通	普通
	24~28	直・小曲り	22,500	少ない	普通	普通

【スギ】

令和4年5月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	16,300	普通	多い	多い
	16~22	小曲り	14,500	普通	多い	多い
	24~28	直	16,300	普通	多い	多い
	24~28	小曲り	14,500	普通	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

七ツ岳（五島市） 431.1m



山内盆地から見た七ツ岳

五島市では森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業に取り組む団体が多く、ほぼ全域で森林保全活動が進んでいます。その団体の皆さんに「五島市の山と言えば？」と尋ねると、最初に出てくるのが九州百名山で知られる七ツ岳です。

何故七ツ岳と名付けられているのか。山内盆地から七ツ岳を見るとすぐに答えは見つかります。七ツのピークがのこぎりの様に見える姿は見間違ふことはありません。登山では縦走が人気のコースで七岳登山公園から1時間程度で登れます。鳥居をくぐり谷間を登っていくと直ぐに階段が設置されています。人の足跡が多く歩きやすい登山道です。最近の登山道は、猪に岩などを掘り起こされ歩きにくいところが少なくありませんが、不思議と五島市の山林では猪の被害があまり見られませんでした。

稜線まで辿り着くと右に広葉樹林、左にヒノキ林とはっきり分かれています。広葉樹林はシイカシ類で日当たりは良くないのですが、ヒノキ林は光がたっぷり差し込み見通しがよく気持ちのよい登山を楽しませてくれます。最近間伐された後のようでした。これも稜線までチェーンソー、燃料、弁当を持って山仕事をしてくださる方のお陰で感謝しかありません。

しばらく進むと突如として現れる岩壁を登り頂上まで20分程度、時々見える景色が頂上の景色を期待させます。

頂上は標高431.1m。この日は桜の開花時期でもあったので、川べりに植栽された桜が頂上から川の流れを映し出しこの日だけの景色を望むことができました。

頂上までの往復は人と会うことがなかったのですが、登山道入口に水を汲みに来られている方がいました。何十年も前から来ているようで、水が甘く感じるとのこと。少しだけいただくと、やわらかく甘い感じがしました。山林に染み込んだ水が道のりを経て、飲み水として味になる。山の恩恵を感じる一瞬でした。

空を見上げると目に映る七ツ岳。今日も五島市の景色に溶け込んでいます。

(NPO法人地域循環研究所)

長崎の林業 6月号 第801号
編集・発行 長崎県林政課
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
電話：095-895-2988
ファクシミリ：095-895-2596
メールアドレス：
s07090@pref.nagasaki.lg.jp